

「聖霊による洗礼」

2016年02月04日

使徒言行録1章3節～5節。イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。ヨハネは水で洗礼を受けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を受けられるからである。」

主イエスは最高法院で神への冒瀆罪として死刑を言い渡された。最高法院は自分たちの手で死刑にすると、主イエスを尊敬し、支持している民衆の反感を買うことを恐れ、ローマの総督ピラトにローマに反逆する「ユダヤ人の王」という政治犯として訴えた。ピラトは尋問するが、政治的野心を持っている者とは思えない。しかし、最高法院の主イエスを葬り去りたい決意に押され、十字架刑を宣告せざるを得なかった。主イエスは十字架につけられ、苦しみの末、息を引き取られた。遺体はアリマタヤのヨセフが引き取り、彼の墓に埋葬された。ところが三日目の朝、主イエスは復活された。復活された主イエスは弟子たちにご自分を現し、生きていることを示された。ルカ福音書は40日に渡って、復活した証拠を示し、言葉をもって神の国について語られたと伝えている。

マルコ福音書は、白い長い衣を着た若者（天使）が墓を訪ねた女性たちにイエスが復活したことを告げたと記しているが、復活した主イエスの姿は描いていない。マタイ、ルカ、ヨハネ福音書は、それぞれの資料を基にして、復活した主イエスの姿を生き生きと描いている。著者たちは復活の主イエスのリアリティを、彼らの信仰告白で著している。

使徒言行録では、復活した主イエスは使徒たちと食事を共にし、「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい」と、エルサレムに留まるように命じられたと記している。マタイ、マルコ福音書は、復活した主イエスは先にガリラヤに行く、そこで使徒たちと会うと書いている。ガリラヤとは地名のガリラヤではなく、主イエスが神の国の宣教において、神の恵みのリアリティを体験した場所を指す。そこで、復活した主イエスにお会いできる。これは、私たちが今生きている場で、復活した主イエスと会うことができるというメッセージである。ルカ福音書24章47節b～49節に「エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい」と書いている。使徒言行録も、私から聞いた、神が約束したもの（聖霊）を待つて、エルサレムから離れるなど書いている。ルカ文書は受難、復活、聖霊降臨はエルサレムで起こると、エルサレム中心主義を貫き、エルサレム原始教会との結びつきを強調している。

復活した主イエスは使徒たちに「ヨハネは水で洗礼を受けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を受けられるからである」と語っている。ルカ福音書3章16節に「ヨハネは皆に向かって言った。『わたしはあなたたちに水で洗礼を受けるが、… その方（主イエス）は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる』」と書いている。使徒たちは、復活した主イエスにお会いできたことを喜び合ったが、何をしていいのかわからなかった。神から聖霊が降って、福音の真理を知らされ、その聖霊によって、洗礼が授けられる。私たちが受けた洗礼は自然の「水」によるのではなく、神の「聖霊」に与ったのである。聖霊に押し出されて福音宣教に邁進する、新しい「聖霊の時代」の到来を告げている。